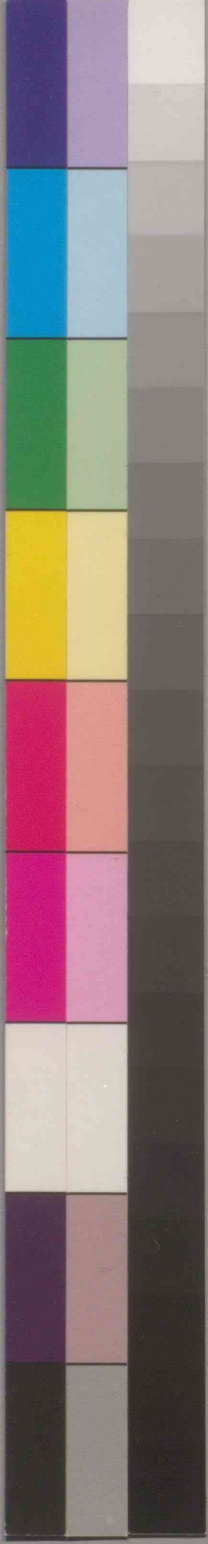
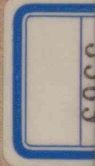


蠶病豫防公告

全

埼玉縣勸業課

明治十九年四月印行





首言

養蠶ハ國家財政ノ幾分ヲ補フベキ貴重ノ産業ナルヲ以テ事業漸  
 ク擴張シ縣下ノ如キモ到ル處該業ニ從事セザルハナク之ガ改良  
 ニ注意セザルハナシ然ルニ其實際ヲ窺ヘバ繭ノ收穫年々遞減シ  
 殆ド底止スル所ヲ知ラザルガ如シ蓋シ養蠶家ニ就キ輒近損益ノ  
 如何ヲ問フニ或ハ徒勞ノ嘆ヲ告ゲ或ハ收支償ハザルヲ告ゲ甚シ  
 キハ大失敗ヲ告グルアリテ將ニ佳良蠶種ノ内國ニ絶滅セントス  
 ルノ恐レナキ能ハザルヲ感ゼルナリ試ミニ明治十七十八兩年ニ  
 就テ縣内收穫ノ多寡ヲ算スルニ十七年ハ掃立原紙十萬〇〇四百  
 四十九枚ニシテ繭ノ收穫ハ七萬千八百六十七石六斗三升六合ニ  
 過ギズ之ヲ原紙ノ數ニ除スルニ平均一枚ニ付五斗四升九合ニ當  
 レリ十八年ハ掃立原紙八萬五千七百十〇枚七千七百三十九枚  
 少ヲ減ニシテ繭ノ收穫四萬四千五百〇八石六斗〇九合七千七百三十九枚



二七千七百五十九石。ニ過ギズ仍ホ之ヲ原紙ノ數ニ除スルニ平均  
一枚ニ付四斗三升斗一七升九合比スレバ一ニ降レリ即チ左表ノ如シ  
此レ何ニ因テ然ルヤヲ原ヌルニ概シテ蠶病猖獗ノ致ス所ナリ豈  
怖ルベキコトニアラズヤ然レモ其病毒ノ人目ニ見ヘ難キガタメ  
ニ大率ネ養蠶家ハ或ハ氣候ノ不順ナルガ故ナリトシ或ハ飼育ノ  
不良ナルガ爲メナリト云ヒテ未ダ其蠶病アルニ心付カザルモノ  
多キニ居レモ聞ク所ニ據レバ遺傳傳染等ノ蠶病今ヤ内國ニ蔓延  
セシコト事實明白ナレバ各養蠶家ハ專ラ此病害ヲ豫防シ及漸ク  
病毒ヲ撲滅セシムルノ計畫ナカルベカラサルナリ幸ニ農商務一  
等技手練木喜三氏が往キニ縣下ニ於テ演述アリシ所ノ黒痣病學  
理及實驗ニ係ル緊重切要ノ説ノ筆記并蠶病圖畧解及解説ヲ得タ  
レバ左ニ詳録シテ公告ス切ニ望ム蠶桑ヲ業トスルモノ此一小冊  
ノ要ヲ採リ蠶病ヲ防遏シ以テ至大貴重ノ産業ヲ完全ナラシメン

コトヲ

明治十九年四月

埼玉縣勸業課



明治十七年繭權實收比較一覽表

郡名	原紙掃立數	繭收實數		一石平均價格	繭收價格		差引價格
		實收繭數	全上		實收價格	繭收價格	
那珂	二二三〇	一、一五〇、〇〇〇	〇、五〇〇	一一、三三四	一、三、七五二、四一〇	二、八五五、〇〇三	
賀美	四、二五七	二、五五四、二〇〇	〇、六〇〇	一二、七八八	三、一、六六三、一〇〇	五、一〇、六三三、二三八	
兒玉	一一、二九三	一、〇七二、八三三	〇、九五〇	一二、五四〇	一、三、四、五三三、五〇九	八、三、二六九、一六一	
秩父	二四、〇三二	一、七三六、八三三	〇、八〇〇	一三、一七五	二、七、八〇三、六七〇	二、三、四〇、六六七、四一	
橫見	三五、四	一、七、〇〇〇	〇、五〇〇	一三、〇〇〇	七、〇、七、七八七、六	四、七、七、六、八七、六	
比企	七三、三九	四、〇三六、四五〇	〇、五五〇	一三、〇〇〇	五、二、四、七、三、八五〇	九、四、二、六、二、一、一六	
高麗	七五、一三	七、〇〇九、六二九	〇、九三三	九、七七五	六、八、五、一、九、一、二三	四、四、四、三、〇、九、四、三	
入間	一一、五七四	一、一三、五、四、三、三三	〇、九〇三	一〇、八七五	一、二、三、四、七、八、二、五三	八、六、八、三、一、三、二、九	
新座	一九、五	九、三、三、八、八、一一	〇、三三〇	一一、九一五	三、〇、三、〇、九、五、八一	二、七、八、三、四、六、三	
北足立	五五、九	一、九〇〇、六〇	〇、三四〇	一一、九一五	一、〇、二、四、三、八、二、六	七、九、七、九、二、六、一	



郡名	原紙掃立數	權收實收量	一枚平均收量	平均	石價	權收價格	差引價格
大里	四一〇・一	六、〇七、三三八	一、五三八	平均一、二二一	九、五八三	六〇、四三三・三三〇	四一、三八二、八二七
旛羅	四二一・八	六、四八七、二八四	一、五三八	平均一、二二一	九、五八三	六二、一六六、六四三	四二、三六一、三〇七
榛澤	一五五・二四	二、〇六六、八二〇	〇、四九〇	平均一、二二一	九、五八三	一九、八〇六、三三六	一四五、四九三、六二九
男衾	四二四・八	三、八七五、九二二	一、五三八	平均一、二二一	九、五八三	三二、八〇二、八六五	一四四、六九八、〇二五
北埼玉	一五二・〇	六、五三三、四四〇	一、五三八	平均一、二二一	八、九〇〇	六二、〇九八、八〇二	一五三、九四八、六四四
南埼玉	三〇・四	一、八六九、一二〇	〇、四四〇	平均一、二二一	一〇、四二五	一七、九二一、七七七	三、六三三、二四二
北葛飾	一六四	六、〇八、〇〇〇	一、五三八	平均一、二二一	一一、四一二	四、八七四、三三〇	三、六三三、二四二
中葛飾	二四	四、六七、五五三	〇、三九〇	平均一、二二一	一一、四一二	五、四二一、二〇〇	三、三二五、三七九
合計	一〇〇、四四九	七、一八六、七六三	平均一、二二一	平均一、二二一	八三一、五八、九〇四	九三三、五三三、九一七	

(備考) ○本表權收ト假號シテ其産額ヲ掲出スルモノハ養蠶方法完全ナルルハ豫算ノ如ク  
 收繭シ得ヘシトノ權量ナリ○全實收トアルハ該年現ニ收獲セシモノヲ掲ク○權收ハ原  
 紙一枚卵數四万粒此成繭即チ四万顆ト做シ一升二百六十顆ノ乘率ヲ以テ算出ス

明治十八年繭權實收比較一覽表

郡名	原紙掃立數	權收實收量	一枚平均收量	平均	石價	權收價格	差引價格
那珂	二四三八	九、七五、二〇〇	〇、四〇〇	平均一、二二一	一一、一〇〇	一〇、八二四、七二〇	三〇、七九六、三二八
賀美	四三三・九	三、七四九、六四四	一、五三八	平均一、二二一	一一、五〇〇	四一、六二二、〇四八	五〇、〇九八、〇九四
兒玉	一一、二五六	六、一八〇、八〇〇	〇、五五〇	平均一、二二一	一一、二八六	六九、八六九、三六九	一一五、五二〇、七九三
秩父	二〇、六二六	一、三、四〇六、九〇〇	〇、六五〇	平均一、二二一	一一、八五八	一五八、九七九、〇二〇	二一七、一八九、八〇〇
横見	四一四	六、六六、七三三	一、五三八	平均一、二二一	一一、七〇〇	七、四四九、七六四	五二、七〇〇、五五四
比企	七四五・〇	三、三三三、五〇〇	〇、四五〇	平均一、二二一	一一、七〇〇	三、九、二三四、二五〇	九四、八三五、五二〇
高麗	二六四・七	一、八五二、九〇〇	〇、七〇〇	平均一、二二一	八、七九八	一六、三〇一、八一四	一九、五二五、六〇一
入間	八、四三五	五、九〇四、五〇〇	〇、七〇〇	平均一、二二一	九、七八八	五七、七九三、二四六	六九、一八六、七七二
新座	五五六	一、六六、八〇〇	〇、三三〇	平均一、二二一	一〇、七二四	一、七八八、七六三	七、三八一、六三〇
北足立	一一、二二三	八、五五、二二八	一、五三八	平均一、二二一	一〇、七二四	三、九〇二、四六四	一六、一〇四、一六六



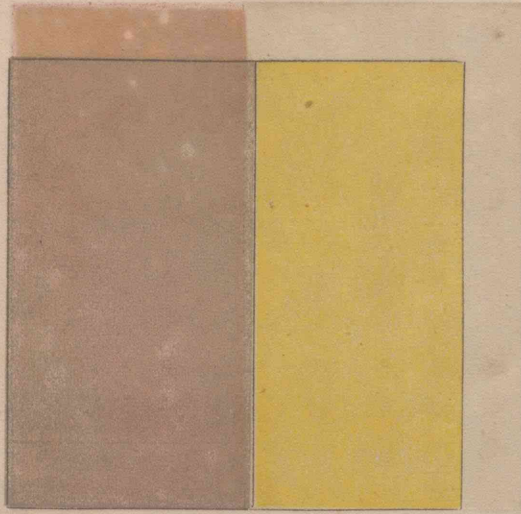
大里	旛羅	榛澤	男衾	北埼玉	南埼玉	北葛飾	中葛飾	合計
二、八六一	三、六三三	一、四八三七	三、二七四	一、三三〇	二、三三九	一、四四四	八	八五、七一〇
四、四〇〇、二二八	一、〇〇一、三五〇	五、五八七、五五四	一、二七五、一八三	二、二八一、九三六	五、九三四、八〇〇	九、八二二、二〇〇	五、〇三五、四三三	四四、五〇八、六〇九
平均 〇、四三〇	平均 〇、三三〇	平均 〇、四三〇	平均 〇、三三〇	平均 〇、三三〇	平均 〇、三三〇	平均 〇、三三〇	平均 〇、三三〇	平均 〇、三三〇
八、六二五	八、六二五	八、六二五	八、六二五	八、〇一〇	九、三八三	一〇、二七一	一〇、二七一	平均 一〇、〇九〇
三七、九五二、八八〇	八、六三六、六四四	四八、一九二、六五三	一〇、九九八、四五三	一九六、八一六、五一四	五一、一八七、六五〇	四三、四三〇、四二九	八、四七一、四七五	一、七五七、一四七、四九三
二、九三二、五二六	三七、一九四、二〇〇	一四五、六二八、八六四	三四、九五八、九五四	一二、七五一、二七九	二、六六四、一三四	一、八三二、〇三二	一、〇一〇、一七三四	九〇、〇三三、四一八

(備考) ○本表權收ト假號シ而シテ其産額ヲ掲出スルモノハ養蠶方法完全ナルキハ豫算ノ如ク  
 收繭シ得ヘシトノ權量ナリ○全實收トアルハ該年現ニ收獲セシモノヲ掲ク○權收ハ原  
 紙一枚卵數四万粒此成繭即チ四万顆ト做シ一升二百六十顆ノ乘率ヲ以テ算出ス

年次	繭權收		繭實收		未成繭高	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
十七年	一五四、四九〇、五六二	一七六、四六八、九八二	七、八六七、六三六	八三、一五八、九〇四	八二、六二二、九二六	九三三、五三〇、九一五
十八年	一三二、八二二、九八〇	一三七、二二一、四七四、九三三	四四、五〇八、六〇九	四七、一八三、三三二	八七、三三三、三七一	九〇〇、三三四、一八一

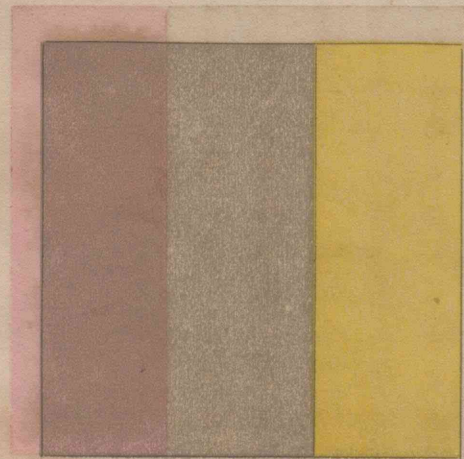


額 產 蘭 年 七 十



比  
較  
表

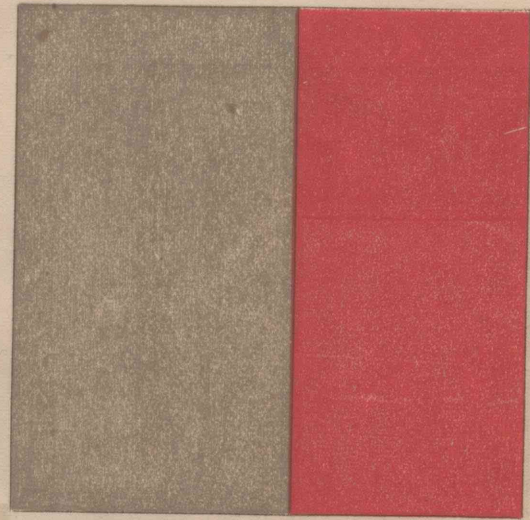
額 產 蘭 年 八 十



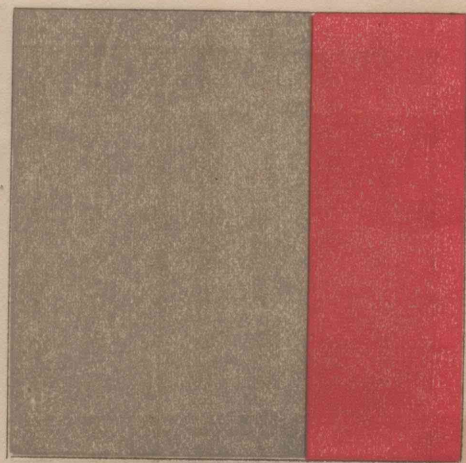
損 實  
耗 收  
蘭 蘭



格價繭年七十



格價繭年八十



實收價  
損耗價

黑痣病學理及實驗

練木喜三

古來養蚕家ヲシテ不慮ノ失敗ヲ來サシメ老練ヲ以テ自ラ任スル  
 養蚕家ト雖モ亦以テ如何トモスル能ハス甚シキニ至テハ終ニ蚕  
 業ヲシテ盪燼セシムルモノハ何ソヤ曰ク蚕病是ナリ蚕病ハ實ニ  
 國家ノ大患ニシテ誠ニ當業者ノ讐敵ナリ蚕病ノ害亦偉ナラスヤ  
 古來養蚕家ノ收繭スル所ヲ見ルニ罕ニハ一石五六斗ノ大量ニ至  
 ルモノアレトモ通常ハ一石ヲ十分ノ作トシ七八斗ナレハ七八分  
 ノ作トナスカ如シ試ニ其十分ノ作トスルモノ即チ一石ノ繭ヲ計  
 フルニ一升平均二百六十顆トスレハ一石ノ繭ハ二万六千顆ニシ  
 テ其蚕ハ二万六千頭トス今假ニ一枚ノ種紙ヨリ生スル蠶量ヲ四  
 匁五分トシ其蠶盡ク成繭スルモノトスレハ一枚ノ種紙ニテ平均  
 一石七斗三升餘ノ繭ヲ得ヘシ試ニ此兩數ヲ比フレハ一万九千頭  
 ノ蚕ハ率子疾病ノ爲ニ斃レタルニテ七斗三升餘ノ繭ハ之ニ由テ



消亡セルモノトス況ンヤ近來厚附ノ流行スルヲヤ一石ノ收穫ハ  
寧ロ五分ノ作ト做シテ可ナリ今其消亡セル五分ノ繭ヲ算スルニ  
五升買ヲ以テスレハ一枚ニシテ金貳拾圓ノ損アリ又内地用ノ種  
紙ヲ百五万枚ト假定シ之ニ此損金ヲ乘スルトキハ年ニ三千万圓  
ノ損アリ十分ノ作トスルモノニシテ其損額ノ大ナル尙且斯ノ如  
シ況ンヤ實際七八分ノ平均ヲタモ得ルコトノ難キヲヤ故ニ曰ク  
蚕病ハ國家ノ大患ニシテ當業者ノ讎敵ナリト然ラハ則チ當業者  
ハ之ヲ恐ル、恰モ虎列刺病ノ如ク之ヲ惡ムコト猶儼毒若クハ天  
刑病ノ如クシテ此讎敵ノ襲來ヲ防キ官亦奮テ力ヲ之ニ盡シ以テ  
此大患ノ迹ヲ絶サルヘカラス是余カ今日日本席ヲ穢シテ蚕病中最  
モ恐ルヘキ黒痣病ノ件ヲ演スル所以ナリ  
凡蚕病ニ種々アリ今其著名ナル者ヲ舉クレハ則チ白蠶コレヤリ細蚕ホソコチ縮ホソク  
蚕コシ空頭蚕コソケ復結蚕フツク瀉蚕ハクダリ不眠蚕ヒドマ膿蚕ウミ高節蚕タカノ白光蚕アカル等トス而シテ其方

言ノ異ナルモノヲ舉クレハ則チ白蠶蚕ハ「ヲシヤリ」シヤリコ「又」イ  
シコト云ヒ細蚕ハ「ヲクレ」又「クヒヲクレ」ト云ヒ縮蚕ハ「ヲキチ」  
「又」クワデカシリト云フ就中異名ノ多キハ空頭蚕ナリ即チ或ハ  
「アタマスカシ」カシラスキ「アカルコ」アントン「チャウチン」ト云ヒ又  
「ツ」ハウモチト云フ瀉蚕ハ一名「クダリヤマヒ」又「ハラツピリ」ト云ヒ  
不眠蚕ハ一名「ヤスマズ」白光蚕ハ「キラ」ト云フ而シテ古來其病理  
ヲ説クモノハ率テ季候ノ冷熱餌桑ノ過不及等ニ依テ發スルモノ  
トシ他ニ又重大ナル種々ノ原因アルヲ知ラズ故ニ之ヲ防クノ術  
亦隨テ其長キヲ得ス徒ラニ年ヲ罪スルノ言ヲ發スルニ至ル近來  
本邦蚕業ノ進歩ハ已ニ彼ノ學理ト實地ニ富メル歐洲養蠶家ヲ壓  
スルノ勢アルモ病蠶ハ反テ年一年ヨリ増加シ必然獲ラルヘキノ  
利潤モ爲ニ去テ泡沫ニ歸ス其損額ノ夥多ナル實ニ前陳ノ如シ噫  
如此巨利ヲシテ空ク泡沫ニ委ス抑亦遺憾ノ至リナラスヤ今左ニ



其病ノ由テ起ル所以ノ理ヲ説明ス諸君幸ニ之ヲ實檢シテ余カ説  
ノ虛ナラサルヲ自得シ併セテ將ニ泡沫ニ歸セントスルノ巨利ヲ  
收得スヘシ

一白蠶蠶ハ佛國ニムスカルジント云ヒ獨逸ニ「スタル、ズーフト」  
「カルクブランド」又「ワイツセイクランクハイト」ト云フ而シテ其  
獨乙名ノ「スタル、ズーフト」ハ蠶蠶ノ文字ト同一義ニテ「カルク  
ブランド」トハ其狀恰モ石灰ヲ散布スルカ如キヲ以テ之ヲ名ケ  
「ワイツセイクランクハイト」トハ白病ノ義ナリ此病ハ「ホトリチ  
スハッシャーナ」ト稱スル寄生植物ノ害ニ由テ生スルモノニシテ  
其皮膚上ニ在ル白粉ノ如キモノハ即チ此植物ノ種子ナリ而シ  
テ蠶ノ此病ニ罹ルヤ其種子ノ氣中若クハ室内ノ塵埃ニ混シテ  
桑葉ニ附着セルモノヲ食スルニ當リ其種子胃中ニ達シテ絲狀  
ノモノヲ生シ養分ヲ蠶體ニ資リテ漸ク蕃殖シ其全身ニ蔓延ス

ルニ及ンテ急ニ斃死スルモノナリ

一細蠶及縮蠶ハ率チ佛國ニテ「ペプリン」又「カッチン」ト云ヒ獨國ニ  
テ「ケルベルヒエンクランクハイト」又「フレツケンクランクハイト」  
トト稱スル病ニ罹レルモノトス而シテ其「ケルベルフエンクラン  
クハイト」ト稱スル病名ハ細小ナル寄生植物ニ由テ生スル病即  
チ微粒子病ノ義「フレツケンクランクハイト」トハ蠶ノ皮膚上ニ  
斑文ヲ生スル病ト云フ義ニテ本演題ノ黑痣病ト稱スル者即チ  
是ナリ凡ソ此病ニ感シタル蠶ハ恰モ人ノ癬病ニ罹レルカ如ク  
次第ニ衰弱シテ斃レ或ヒハ繭ヲ結ヒ蛾ニ化シテ卵ヲ産スルモ  
其病毒ヲ子孫ニ遺傳スルヲ以テ獨乙ニテハ又「シウ<sup>井</sup>ンドズーフト」  
ト即チ癬病ト名ケタリ抑此黑痣病ト稱スル病名ハ特ニ歐洲ノ  
蠶ニ發スル病徵ニ依テ名ケタルモノニテ彼ノ蠶ノ該病ニ罹レ  
ルモノハ率チ其皮膚上ニ黑色ノ痣ヲ生スルヲ常トス而シテ其



痣ノ生スルヤ始メハ微ニシテ恰モ物ノ影ノ如クナレトモ漸ク  
 ニシテ黄色ヲ呈シ黯色次第ニ加リテ褐色トナリ終ニ煤黑色ト  
 ナリテ一種ノ光澤ヲ帶ヒ各痣漸ク放大シテ全身ニ蔓延シ恰モ  
 漆ニ投セルカ如キ狀ヲ爲スニ至ルト云フ然ルニ本邦蠶ノ該病  
 ニ罹レルモノハ斯ノ如キ痣ヲ呈スルコト甚々稀ニシテ多クハ  
 其外貌尋常ノ健蠶ニ異ナラス唯細小ニシテ何トナク衰弱ノ狀  
 ヲ顯スノ異アルノミナリ今是ニ由テ之ヲ考フルニ黒痣病ノ稱  
 唱ハ彼ニ適シテ我ニ適セス寧ロ佛名ヲ其儘ニ用ヒテ「ペプリン」  
 ト稱スルカ然ラサレハ微粒子病ト云フヲ可トスルカ如シ何ト  
 ナレハ此病ハ前ニモ云ル如ク微粒子ノ寄生ニ由テ生スルモノ  
 ナルヲ以テナリ  
 抑此寄生物ハ今ヲ距ルコト三十六年前「フヰリフヒ」氏ナル者  
 ノ發見シタル一種ノ「バクテリア」ニテ「チーゲリ」氏ナル者之ニ

「ノセマホンピチス」ト稱スル學名ヲ付セリ其形率子楕圓形ニシ  
 テ長サ〇、〇三ミリメートル乃至〇、〇〇四五ミリメートル其幅  
 ハ〇、〇〇〇一五ミリメートル乃至〇、〇〇二ミリメートル（一ミ  
 リメートルハ我三厘二九餘ニ當ル）ニ過キス之ヲ顯微鏡ニ照ス  
 ニ或ハ全体透明ナルアリ或ハ二個ノ圓斑ヲ具フルアリ或ハ許  
 多ノ小斑ヲ具フルコト恰モ砂ヲ含ムカ如キ者アリ稀ニハ各種  
 ノ變形物アリテ其大サ〇、〇〇九ミリメートルニ達スル者アリ  
 而シテ其蕃殖ニ二様アリ即チ蠶蛹及蛾ノ体中ニ寄生セルモノ  
 ハ一体中ヨリ許多ノ微粒子ヲ産出シ卵中ニアル者ハ一体中ニ  
 一以上ノ括レ目ヲ生シ相分離ス  
 一空頭蠶ハ佛國ニ「フラッセリ」獨國ニ「シラスズーフト」又「アウルズ  
 ーフト」ト云フ而シテ其「フラッセリ」及「アウルズーフト」ハ腐敗  
 病ノ義ニシテ「シラフズーフト」ハ軟化病ノ義ナリ此病ニ罹レル



蠶ハ此病根ヲ其父母ヨリ遺傳シ室内温熱ニ過クルカ或ハ濕潤ニ過クルカ又ハ季候ノ急變ニ際スルカ或ハ蠶室ノ不潔ナルカ又ハ桑葉ノ不潔ナルモノ若クハ濕潤ナルモノ或ハ酸酵ヲ催セルモノヲ與フル等ニ依テ血液酸化ノ不長ヲ起シ尿管中ニ核酸石灰ヨリ成レル結晶ヲ多量ニ生シテ尿管ノ材能ヲ害セラル、ノミナラス「ヒブリヲ」及「ミクロコフクスト」ト稱スル「バクテリア」ノ爲ニ消化器ヲ害セラレテ終ニ斃ル、モノナリ腹結水瀉モ亦同原因ニ由テ發スル病トス

其他不眠蠶ト云ヒ膿蠶ト云ヒ高節蠶ト云ヒ白光蠶ト云ヒ率子獨逸國ニ「ゲルブズーフト」即チ黃疸ト稱スル病ニテ其四眠後ニ發スル者ハ率子蛆ノ害トス(蛆ノ事ハ佐々木長淳氏ノ演說書アルヘキヲ以テ此ニ略ス)

以上諸病中古來養蠶家ノ最モ恐ル、者ハ白僵蠶ニシテ細蠶以下

ハ皆之ニ次ク者ト爲シ細蠶及縮蠶ノ害ノ反テ白僵蠶ヨリ大ナルヲ知ラス是蓋シ本邦養蠶家ノ蠶病ヲ見ルヤ唯目前ノ狀況ヲ視察シテ其輕重ト害ノ大小トヲ鑑定スルニ止マリ其病理ヲ探究スルノ精シカラサルニ職由セルナリ

抑此細蠶及縮蠶ト稱フル病ハ前ニモ云ヘル如ク率子本演題ニ掲ケタル黑痣病ニテ遺傳ト傳染トヲ兼テ蠶ヲ害スルコト恰モ人ノ微毒ノ如シ其實ニ蠶病中ニ冠タリト雖モ其病毒即チ微粒子ヲ最モ多ク遺傳セル卵ハ孵化ノ候ニ至ルモ遂ニ變色セス其稍少ナキ者ハ漸ク變色スルモ未タ蠶形ヲ成スニ至ラスシテ斃レ之ニ亞ク者ハ漸ク蠶形ヲ成スモ殼ヲ脱スルニ至ラスシテ斃レ又之ニ亞ク者ハ殼ヲ脱スル未タ半ナラスシテ斃レ又之ニ次ケル者ハ微粒子ノ多少ニ隨ヒ或ハ孚化スルモ未タ桑附ニ至ラスシテ斃レ或ハ暫時健然ナルカ如キモ遂ニ縮蠶或ハ細蠶トナリ棘沙ト共ニ棄却



セラル、所トナリ漸次其頭數ヲ減スルモ健蠶次第ニ成長スルヲ以テ多クハ養蠶家ノ目ニ繫ラス遺傳ノ最モ少ナキ者ハ所謂後レ蠶トナルモ終ニハ繭ヲ結ヒ又能ク蛾トナリテ産卵スルモノ多キヲ以テ害ノ養蠶家ニ感スルコト白蠶蠶ノ俄然發病シテ一時ニ斃死スルカ如クナラス是本邦養蠶家該病ヲ輕視セル所以ナリ然而而ノ其細蠶トナレルモノハ勿論所謂後レ蠶トナルモノモ亦四眠前ニ發病セルモノハ必ス其病毒ヲ子孫ニ遺シ健然無病ノ蠶ト雖モ幼稚ノ際之ヲ傳染セルモノハ亦其病毒ヲ子孫ニ傳フルヲ以テ遂ニハ卵トシテ該病毒ヲ有セサルモノナキニ至ル是此病害ノ白蠶蠶ヨリ大ニシテ蠶病中ニ冠タル所以ナリ或人曰ク黑痣病ノ諸蠶病ニ冠タル理ニ於テ或ハ然ルヘシト雖モ之ヲ實際上ヨリ觀ルトキハ大ニ疑フ所ナキ能ハス何トナレハ若シ果シテ斯ノ如クンハ本邦ノ蠶ハ既ニ皆該病ノ爲ニ斃レ去テ其影ヲタモ止メス本邦

ノ蠶業ハ全ク地ヲ拂フテ絶スヘキニ今尙連綿トシテ國家ノ經濟ヲ維持シ畜ニ之カ爲ニ衰退ノ狀ヲ呈ハサバノミナラス却テ益隆盛ニ赴カントスルノ兆アル是ナリ且夫該病ノ遺傳症タル其卵ニ微粒子ヲ傳フルヲ以テ稍信スヘシト雖モ是ヲ傳染スルト云フカ如キハ未タ一モ信ヲ置クニ足ルノ事實ヲ發見セヌ是亦余カ疑フ所ノ一ナリト此疑ヤ素ヨリ皮相ノ見解ヨリ生シタルモノ故實地ニ就テ經驗セハ自ラ氷解スヘシト雖モ聽衆諸君中或ハ同感ヲ懷クノ諸君アルナキヲ保セス請フ左ニ該病ニ關スル海外及本邦ノ事跡ヲ述ヘ次ニ客歲余カ實檢セル所ノ成績ヲ掲ケテ其蒙ヲ啓カントス

抑該病ノ歐洲ニ流行スルヤ特ニ近時ニ發セシニ非ス既ニ西曆一千五百年代ニ於テ佛國南部ヨリ伊國ノ北部ニ行ハレ伊國南部ノ蠶種ヲ用ヒテ之ヲ防ケリト云フ其後一千六百八十八年我元祿ニ



モ亦大ニ流行シテ遠近ニ及ヒ一千七百年元寶ニ至リ外國ノ蠶種ヲ輸入シテ始メテ舊ニ復セリ其間二十三年ノ久シキニ亘リ其極ヤ桑園ハ變シテ田圃トナルニ至レリト云フ又一千七百五十年ニモ同症ノ蠶疫大ニ流行シテ養蠶全ク地ニ墜チ爾後三十年ニシテ又々同症ヲ發シタリト云フ其ヨリ近時ニ至リ一千八百四十九年嘉永ノ頃ヨリ又該病次第ニ蔓延シ同五十二年嘉永マテハ佛國ニ於テ産スル繭ノ量毎歲凡二千六百我六千九十一萬目アリシモ該病ノ爲ニ其收量ヲ減スルコト年一年ヨリ甚シク十二年ノ後即一千八百六十五年慶應ニ至リテハ其收量僅ニ四百萬一千四百六目ニ過キサリシト云フ其他ノ諸國モ亦推シテ知ルヘシ是ヨリ前歐洲ノ養蠶ハ殆ト將ニ地ニ墜ントスルニ際シ各國擧テ健然ノ蠶種ヲ遠隔ノ地方即土耳其波爾西支那等ニ求メテ此害ヲ避ントセシモ終ニ其望ヲ達スル能ハス同六十四年元治ニ至リ適佛國ト

一ムノ養蠶家カ我蠶種紙三枚ヲ獲テ始メテ我蠶種ノ健然ニシテ此害ヲ避ルニ足ルヘキヲ知リ其翌年我蠶種一萬五千枚ヲ舊幕府ヨリ佛國政府ニ寄贈セシヨリ以降專ラ我蠶種ヲ購入シテ其缺ヲ補ヒ官民非常ノ勉強ヲ以テ漸ク今日ノ回復ヲ致セリ是我蠶種ハ一時貿易上ニ大勢力ヲ占メ十年前ハ毎年伊佛諸國ニ輸出セシモノ大約百三十萬枚ニ下ラサリシモ其需用年ヲ追テ減少シ去ル十五年ニハ十七萬枚トナリ十六年ニハ一層衰ヘテ僅ニ七萬枚餘トナリシヲ以テ知ルヘシ  
該病流行ノ爲ニ非常ノ損害ヲ被フリシハ特リ西洋ノミナラス東洋亦養蠶地方ニ於テハ所トノ此害ヲ受ケサルコトナシ現ニ支那地方ニ於テハ近頃此病大ニ流行シ數年前迄ハ毎年同國ヨリ歐米諸國ニ輸出セル生絲高大約八萬俵ヲ下ラサリシモ該病流行ノ爲ニ其高漸ク減少シ一昨十六年ノ如キハ僅ニ四萬俵ニ過キサリシト



豊驚クヘキ減額ナラヌヤ是ニ於テカ曾テ我富岡製糸場ノ教師タ  
 リシ佛人ブリユナ氏ナル者大ニ之ヲ憂ヒ該病流行ノ最モ盛ナル地  
 方即チ江蘇浙江ノ間ニ一ノ蠶政總局ヲ設ケ蠶事學校ヲ置テ生徒  
 ヲ養ヒ顯微鏡上ノ検査ヲ施シテ該病根ヲ絶ントスルノ意見書ヲ  
 李鴻章ニ呈シ李鴻章之ヲ嘉納シテ直ニ其政府ニ轉達セリト云フ  
 本邦ノ該病ニ於ル害迹ノ既往ニ証スヘキモノナキヲ以テ其盛衰  
 等ニ至テハ未タ之ヲ詳ニスル能ハスト雖モ之ヲ昔時ニ比スレハ  
 其毒ノ大ニ蔓延セルヤ明ナリトス既ニ千八百六十六年ニ我舊幕  
 府ヨリ佛國政府ニ寄贈セル蠶種ニハ客歲刊行ノ農務局臨時報蠶  
 病ノ注意ニ掲載セル如ク微粒子ノ遺傳尙僅少ニシテ健然無病ノ  
 モノ二十五枚中八枚アリシモ本年ノ實驗ニ據レハ其歩合群馬長  
 野ノ兩縣ハ九分強埼玉縣ハ九分弱大分縣ハ七分滋賀秋田ノ兩縣  
 ハ六分弱栃木縣ハ四分強山梨縣ハ一分強徳島縣ハ一分弱ニシテ

總平均三分弱ニ至リ種紙ノ總數七十枚中健然無病ノモノハ僅ニ  
 六枚ニ過キス其歩合十歩以上ニシテ既ニ飼養ニ適セサルモノ十  
 五枚アリキ且此蠶種ハ前陳諸縣ニ於テ殊ニ有名ノ製造人ヨリ精  
 撰シテ出セルモノナルモ其病毒ノ昔日ニ數倍セルコト尙斯ノ如  
 シ況ンヤ尋常販賣供スルモノヲヤ或ハ又之ニ倍蕪スルモ知ルヘ  
 カラス該病蔓延ノ年ヲ逐テ大ナル推シテ識ルヘシ養蠶家古老ノ  
 言ニ曰ク如何ナル故ニヤ蠶ハ追々飼ヒ惡クナリシト亦以テ其蔓  
 延ヲ證スヘシ  
 又該病傳染ノ件ハ別ニ喋々スルヲ要セス左表ノ説明ヲ下サハ則  
 チ自ラ明ナラン

液中小微粒の填ちたるもの	○	一	雙四	雙七	雙十
稍少なきもの	○	一	雙三	雙一	雙
微粒子の多少有無	良	繭惡	繭傳染を試みたる者	別飼ひたる細蠶の中稍輕症のもの	同しく重症のもの



これより次くもの	○	一	雙一	雙	○	○
甚少なきもの	一	雙三	雙一	雙	一	○
二粒あるもの	二	雙二	雙	○	○	○
一粒あるもの	○	○	○	一	雙	○
全くなきもの	七	雙二	雙一	雙	○	○

此表ハ農務局ノ蠶病假試験所ニ於テ客歲該病ノ試験ヲナセシト  
 キノ一成績ニシテ良繭ヲ造リタル蠶ノ蛾ト形モ惡ク纖維モ良シ  
 カラサレトモ絲量ノ多キ繭ヨリ出タル蛾ト第四齡ノ際健蠶ニ細  
 蠶ノ体液ヲ塗リタル桑葉ヲ與ヘテ其傳染ヲ試ミタル蛾及別ニ飼  
 タル細蠶ノ中ニテ重症ノモノヨリ出タル蛾ト輕症ノモノヨリ出  
 タル蛾ト各十雙ヲ撰ンテ産卵セシメ其蛾ノ体液ヲ顯微鏡ニ照シ  
 テ微粒子ノ有無及其多少ヲ驗シタルナリ而シテ其傳染ヲ試ミタ  
 ルモノハ果シテ微粒子ノ夥多ナリシコト第四段ニ示セルカ如シ

以テ前説ノ証サルヲ知ルヘシ

年	次
明治九年	蠶卵紙一枚ニ付凡收獲高
明治十年	壹石
明治十一年	壹石貳斗
明治十二年	壹石貳斗
明治十三年	九斗
明治十四年	八斗
明治十五年	八斗
明治十六年	五斗
明治十七年	貳斗
明治十七年	四升

此表ハ農務局員松永伍作氏カ客歲南豐島郡ノ某家ニ於テ種紙壹



枚ヲ掃立テ僅ニ四升許ノ繭ヲ獲タルモノニツキ其飼養ニ供シタル蠶具ニ微粒子ノ夥シク附着セルヲ發見セシヨリ其蠶室建設以來ノ收量ヲ調査シタルモノニテ追年其收量ノ減シタルハ單ニ蠶種ノ悪キノミナラス其幾分ハ掃除ノ不行届ヨリ前期ノ微粒子其蠶室及蠶具ニ存在シテ傳播力ヲ逞フセルニ由リテ斃レタルヤ必セリ而シテ其減額ノ十五年以降ニ至リテ殊ニ大ナルハ十四年ヨリ毎歲春夏秋共ニ之ヲ飼養セルニ由レリ亦以テ微粒子ノ愈多ク遺存シテ傳播力ノ益猖獗ナリシヲ知ルヘシ此他尙其遺傳ト傳染トニ係ル實驗ハ本年四月刊行ノ農商工公報號外蠶病試驗成績第一報ニ詳ナリ宜ク參考スヘシ

蠶病圖略解及解説

圖解

蠶病ノ種々あれども就中最恐へきものは黒痣病にて本邦の細蠶といへるハ即是なり上に掲ぐる額は其病狀及ヒ検査方等を示せるものなり乃ち

第一ハ無病蠶

第二ハ細蠶

第三ハ細蠶に黒痣を生いたるもの(此病を黒痣病といは此病

あるか故なり)

第四甲ハ無病の卵全乙ハ微粒子の黒痣病の多く遺傳したる卵を

大きく畫しもの

第五ハ三百七十五倍の顯微鏡にかけて細蠶の体液中にある微粒子を示せるもの



第六の三百五十倍の顯微鏡にかけて卵液中にある微粒子を示せるもの

第七甲の微粒子を大きく畫しもの全乙の微粒子の變形

第八の微粒子の蕃殖する狀

第九の顯微鏡を以て微粒子の有無を檢査する狀

第十の顯微鏡の要部を分解して示せるもの

第十一の顯微鏡にて檢査する物体を載する硝子板

第十二の卵を磨碎する乳鉢

第十三の蠶室内の病毒を消滅せん爲めに用る薰蒸器

右は毎圖の略解なり看者此病に就き詳細なる説明を知らんと欲せハ下の各條を讀むへー

解説

凡蠶種々の病ありて就中最恐るべきは第三圖に示せる黒痣病なり此病ハ先年歐洲に流行して慘毒を極め養蠶家は殆ど其業を廢めんとするに至れり我蠶卵紙の輸出盛なり一も全此が爲なり其後彼國にてハ顯微鏡を用ひて此病毒の有無を檢査すると鹽素瓦斯を豫防に條蠶して其毒を滅するの法を發明せしより此病大に減少せしとハ我蠶卵紙の輸出の減たるを見て知へし近年又支那に此病大に流行し江蘇浙江等の間最甚しく到處其害を受ざるものなりといふ我邦にても近頃此病毒大に蔓延し今もこれれを忽にせしに支那歐洲の如き慘狀を見んとするの景況ありるに至れり因て先此病の歐洲に流行せし顛末及び此病の本邦に蔓延れる原因を述べ次此病の徴候と蠶此病に罹る理由を示す



其一 此病の歐洲より流行したる顛末  
元來此病の歐洲より流行したる顛末  
年前我貞享元此病大に流行し終る桑を引抜て他物を植るものと二百  
多きよ至れるを以て外國より新種を購入て此害を免かれ  
たりといふ其後千七百五年我寛永及ひ千七百二十五年我安  
間よ大に流行して非常の慘状を見たり千八百四十九年我嘉  
年よ至りて又大に蔓延し千八百六十年我文久其翌年我  
跨り殊に甚しかりか〇千八百六十五年我安政より其翌年我  
邦の蠶卵紙壹萬五千枚を佛國の政府より彼國よて盛  
よ我蠶卵紙を輸入して一時缺乏を補ひ漸次製卵の法を改良し  
て漸長種よ復せりと云ふ  
其二 此病の本邦よ蔓延し理由  
本邦に此病の蔓延し亦特よ近時よ起りに非す前にも云へる

舊幕府より佛政府に贈りし蠶卵紙は翌年彼國にて検査せしと  
き此病に感せざりしもの二十五枚中僅に九枚に過ぎり又  
全國にて千八百六十九年我蠶卵紙六百枚を検査したるに百枚  
に就き無病のもの十六枚の割合なりきといふ然に爾後連年我  
蠶卵紙を購入し益盛なりしに彼國の蠶種に比れば猶頗る善長  
なりしかゆゑなり本邦の養蠶家は此理由を知らずして其需用  
の年々多きを見て競ふて枚数の多額を貪り識らず知らず濫製を  
なすもの多きよ至れり是に由て我卵種は近年此病毒の遺傳多  
きを加へて彌惡質に陥り彼蠶種は漸次に此病毒を減せしのみな  
質に復せしを以て音に蠶卵紙輸出の額年を追て減せしのみな  
らず却て此病毒を内地に殖す媒となり遂に今日の蔓延を來す  
に至れるなり  
其三 此病の徴候及ひ病の名



西洋にて此病に罹りたる蠶は皮膚に黒痣を生じて痣ごとくに量  
状を繞らし其輪次第に大くなりて遂に全身に廣かり恰も髹漆  
に浸せる如くなるよしなれども明治十七年農務局の試験に據  
れば本邦にて此病のみに罹れるものハ所謂細蠶にて其形第二  
圖に示せる如く健蠶より細小して眠起の漸々に遅るゝ差ある  
のみ其色に至ては略健蠶と同一て第三圖の如く黒痣あるも  
の甚だ稀なり曩に農務局より頒布あり蠶病の注意にも云  
へる如く此病の輕重は決して痣の大小に關するものなれども  
斯の如く其病の徵候異なる所あるは彼と我との風土自ら異な  
るかゆゑなるへり又此病の遺傳たる卵は其形大抵正しからず  
殊に甚しきものは赤褐色を呈すと第四圖乙に示すが如し元來  
此病は前にも云へる如く本邦に所謂細蠶なれども多少黒痣を  
生ずるを以て佛國にては「ペブリン」Pebline 獨逸にては「フレッケン

克蘭クハイト」Pleekenkrankheitと云ふ共に黒痣病の義なり又此病に  
罹りたる蠶の体には病の輕重により多少左に説明する如き微  
粒子の寄生して次第に衰弱て斃るに由り獨逸にては「ケルベル  
ヒエンクランクハイト」Karperchenkrankheit とも又「シウインドズーヒト」  
Schindsucht ともいへり譯すれば微粒子病又癆病といふ義なり但  
第五圖蠶の体液を三百七十五倍の顯微鏡に照らし又第六圖は  
卵の液を三百七十五倍の顯微鏡に照らして微粒子を示せる圖  
にて六圖中にある圓球は卵の脂肪なり  
第四 病毒の形狀及び其蕃殖  
此病毒は「ノセマホンピチス」Nosema bombycis と稱する一種の寄生  
物よりて千八百五十年即我嘉永三年に始めて發見したるものな  
り此寄生物の率第五圖第六圖及び第七圖甲に示せる如き楕圓  
形の微粒子なれども稀には第七圖乙のごとく變形にして大さ



二三倍のものを其楕圓形なるものを顕微鏡にて見れば率二個の  
 圓點あり甲(イ)の如し稀にハ此點夥多ありて宛砂を含む如き状  
 をなすあり(ロ)の如し又全透明にして圓點なきものあり(ハ)の如  
 し而して其蠶蛹及び蛾に寄生せるものは其始第八圖甲に示せ  
 る如し一體中より夥多の子粒を生じ此子粒漸々肥大本然の  
 大きに達すれば復各夥多の子粒を生じて倍蕃殖し其卵及び蠶  
 の腸壁中に寄生せるものは乙圖の如く一體中より以上の益を  
 生し漸分離して蕃殖するものなり  
 其五 此病の生ずる理由  
 此病は微粒子の寄生によりて生ずるものにして遺傳と傳染と  
 を兼たる猶人の微毒の如く其傳染の速なると猶虎列刺病の  
 如し而して其傳染に係るものは其卵母の卵巢中に在て未卵殼  
 を生ぜざる前に此病毒即微粒子を母より受るものにして其微

粒子を最多く遺傳せしは其卵迷ひ孕化と能はず其稍少きもの  
 ハ已に孕化するも殼を脱ると能はずして斃れ之に次ものは漸  
 く半身を脱して死す又全脱出も桑を食ふに堪えずて斃るもの  
 あり其最少きは孕化後細蠶となり若干の眠起を経て死するもの  
 り或は繭を結て微粒子を卵に遺傳あり其傳染に係るものは細  
 蠶の糞尿等に微粒子の混りて桑葉に付たるを食するか或は其  
 儘蠶室に止り或は塵に混りて空中に飛散たるものを桑葉と共に  
 に食するに起るものにして此微粒子蠶の腸中に達すれば直に  
 腸管を胃漸蔓延て全身に滿つ而して之を傳染せしものは率  
 後蠶となりて微粒子を卵に遺傳す故に養蠶の盛なる地にては  
 卵種の善悪を撰ざるものは勿論蠶室蠶具等の掃除を怠れハ從  
 て不作を免れず現に明治十七年農務局にて各種の蛾を十疋つ  
 取て其体液を檢せしに最良繭の蛾は微粒子の最少もの一疋



二粒あるもの二疋全なきもの七疋惡菌の蛾は全なきもの僅に  
 二疋に於て餘八疋は皆多少の微粒子あり又幼稚の際傳染を試  
 みる蠶の蛾は微粒子なきもの一疋にして全体中之を充すも  
 の四疋あり輕症細蠶の蛾は全体中之を充すもの七疋にして他  
 の三疋も亦多少の微粒子あり重症細蠶の蛾八十疋にも皆之  
 を充せり又蠶卵紙改良試験の爲机上に陳列たる梓を造り四百  
 八十雙の健蛾を撰びて産卵せしむると次に陳たる蠶卵紙の如  
 く一々其蛾を檢するに全く微粒子なきもの二百十五雙に過  
 すして二百六十五雙は多少の微粒子を有り右は蠶卵紙壹枚に  
 して壹石九斗五升の收納あり一繭の中極て健にて最良繭なる  
 に微粒子の多と此の如況其惡ものは其卵に微粒子を遺傳す  
 と多き推知へきなり故に蠶卵紙の製造を業とするものは勿論  
 繭を採取する爲に養蠶をなすものも亦勉て左の豫防法を施し充

分善良の卵を撰ひて飼養へ一斯の如くして養方宜きを得は決  
 して違作するとなかるへ一  
 其六 豫防法  
 此病の遺傳と傳染を兼て蠶を害するものなるを以て假令健康  
 の蛾より生れたる卵にて毫も微粒子を遺傳さざるもののみを  
 養ふとも其近隣より此病蠶あるときハ恰も虎列刺病の近所にあ  
 ると同く其病蠶より此病を傳染する恐あり況て惡卵を同室に  
 養ふに於てをや否ざるも前年此病あり一室に養ふときハ必此  
 病に罹る恐あるなり故に養蠶後蠶具ハ直に洗ひ清めて一切の  
 汚物を去り蠶室も亦叮嚀に掃除して簇殼塵芥等は残す燒き棄  
 て蠶具ハ勿論天井壁等に至るまで石灰水に鹽素石灰を少許加  
 へて能く洗淨むへ一又卵紙を製するものハ養蠶季節に臨み隔  
 戸等の隙間を能く密封して室の中央に机を設け其上に第十三圖

戸等の隙間を能く密封して室の中央に机を設け其上に第十三圖  
 へて能く洗淨むへ一又卵紙を製するものハ養蠶季節に臨み隔  
 汚物を去り蠶室も亦叮嚀に掃除して簇殼塵芥等は残す燒き棄  
 病に罹る恐あるなり故に養蠶後蠶具ハ直に洗ひ清めて一切の  
 養ふに於てをや否ざるも前年此病あり一室に養ふときハ必此  
 養ふとも其近隣より此病蠶あるときハ恰も虎列刺病の近所にあ  
 の蛾より生れたる卵にて毫も微粒子を遺傳さざるもののみを  
 此病の遺傳と傳染を兼て蠶を害するものなるを以て假令健康  
 分善良の卵を撰ひて飼養へ一斯の如くして養方宜きを得は決  
 して違作するとなかるへ一  
 其六 豫防法



甲の如き徳利を据へ其下乙の如き酒精燈を安置して机の周  
 圍に蠶具を排へ徳利に禍石を盛りて鹽酸を注入れ酒精燈に火  
 を點けて直に入口を密閉して二十八時間を経外より扉戸を開放  
 し充分新鮮空氣を送れ一後能く掃除すへ一斯の如くすれば畜  
 除くへ一尤此徳利より出る氣即ち鹽素瓦斯は人にも大毒なる  
 ものなれば此氣に中らざるやう能注意すへ一但此法を行ふよ  
 り十尋立方の室に付禍石五磅鹽酸二磅酒精二合五勺徳利凡  
 六合入りて宜し  
 又卵を製する爲に養蠶するよへ眠起とに進みたるものと後れ  
 たるものとのを除て別室に移し極て健康なる蠶のみを養ふて最  
 良繭のみを撰ひ可成第十四圖(甲)の如き梓を製して一疋つゝ別  
 に産卵せしめ而して同圖(乙)の如く一々其蛾を検査して毫

も微粒子なき蛾の卵のみを原種に供すへ一又尋常の蠶卵紙を  
 購求て養蠶するものハ顯微鏡を以て之を検査するか否されハ  
 第四圖乙の如く色の變たる卵及びひ形の惡き卵を精密に取除て  
 飼養へ一  
 其七 顯微鏡を以て卵の善惡を試験する方法

(同圖乙)にて能く磨碎し清水二十滴を加へて能く攪糲し其一滴  
 を硝子板に採りて小硝子板を蓋し第十一圖の如く一形蓋板圖方  
 形蓋板之を顯微鏡の上に載せて覗くと第九圖の如く一隅よ  
 り次第に檢へて十回に及ひ毎回微粒子を認むると第六圖の如  
 くなるものハ尤惡性の蠶卵紙なれば決して養蠶し用ふへから  
 す然れども其數の甚た少きもの若くハ之を認むると十回に及

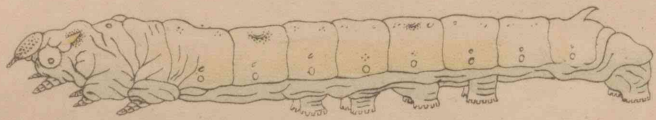


はざるものは又一滴を採りて検査ると前の如く一回微粒子  
 を認めざるも前回と合して十回に至らざるものを採り用ふへ  
 一の検査にて疑いなきものハ絲を以て紙面に縦横に區畫り全  
 右の五十區に分け一區ごとに一卵を取り一卵ごとに検査て微粒子  
 を一々其區を截去り第四圖乙の如く色の變たるものを取除  
 て飼養に充へ  
 右検査を行ふとき顕微鏡を組立てにハ先光線を受る所に  
 顕微鏡を掘へ硝子板を載る臺の中央に在る孔に第十圖丙  
 鏡のより見る圖(ロ)ハ若くハ丁の小孔を向しめ同圖甲  
 鏡の番號を顯微鏡に附屬せる表に合して三百倍以上の  
 撰ひ甲の目鏡の上を差込み乙の目鏡は下より旋入込み臺の  
 在る鏡の位置を定て鏡筒中を明かならしめ接眼鏡を覗きて

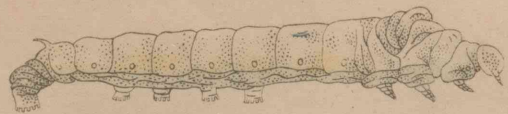
徐々鏡筒を下垂て物形の見る度に至らハ第九圖の如く鏡筒の  
 後ハ在る螺旋機を左右に運して之を檢すへ又卵液を薄める  
 とき苛性加里の稀薄液二分の一を以て水に代るときハ微粒  
 子を認易し然れども此液ハ物を腐らす性あるものなれハ他物  
 不着さるやう能注意すへし



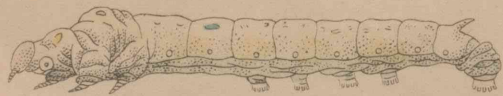
一 第



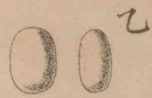
二 第



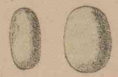
三 第



四 第



乙

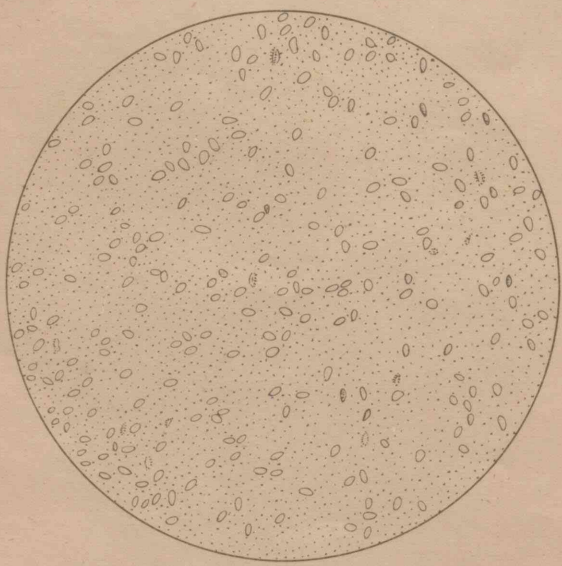


甲

Faint, illegible text in a rectangular frame on the right page, likely bleed-through from the reverse side of the paper.

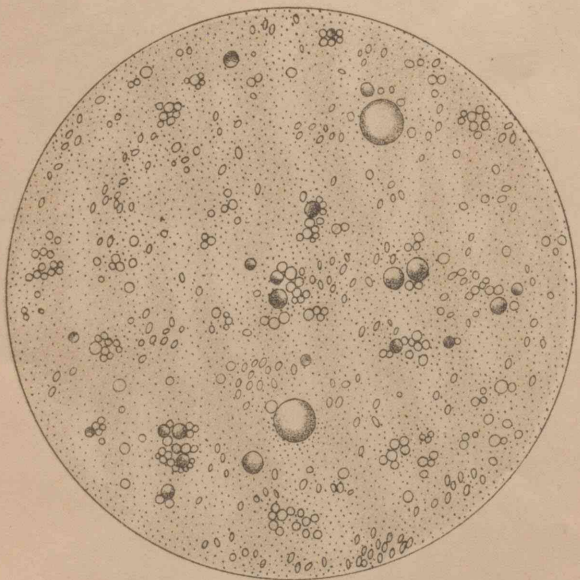


第五





第  
六





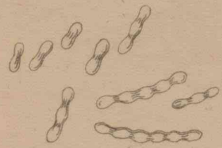
第七 第 甲

乙



第八 第 甲

乙



甲



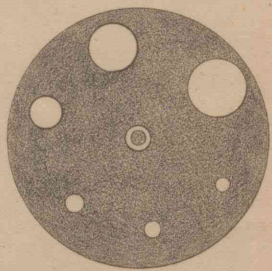


第九

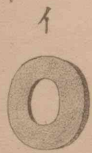




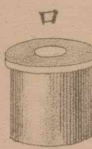
第十



丁

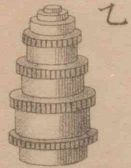


イ

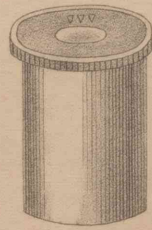


丙

口



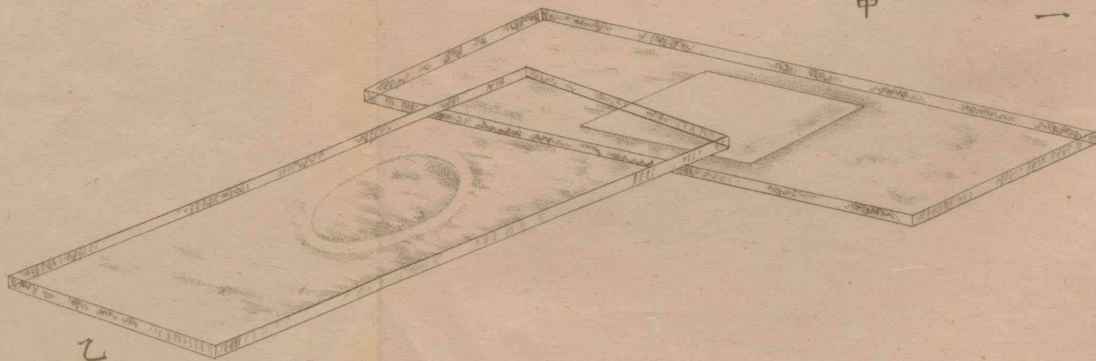
乙



甲

第十一

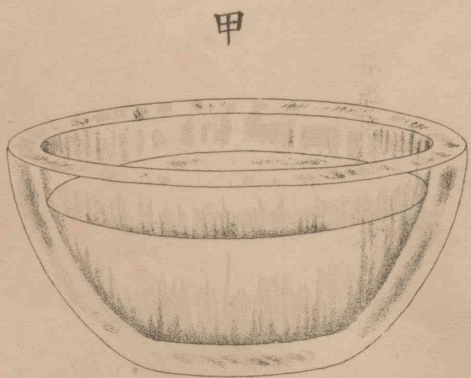
甲



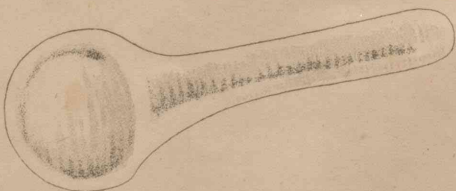
乙



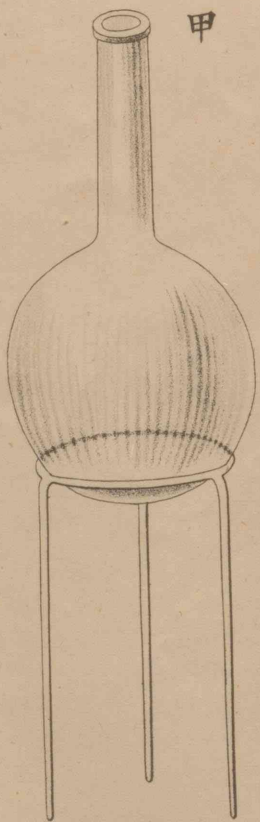
第十二



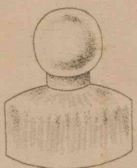
乙



第十三



乙



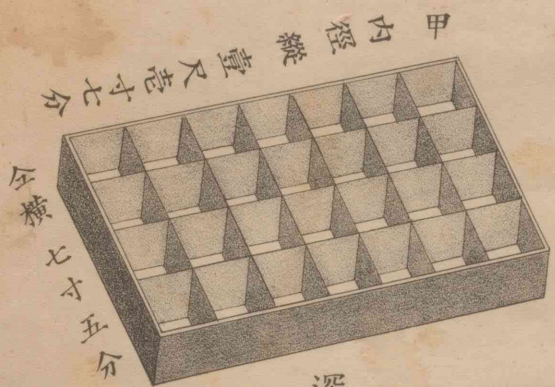




第十四

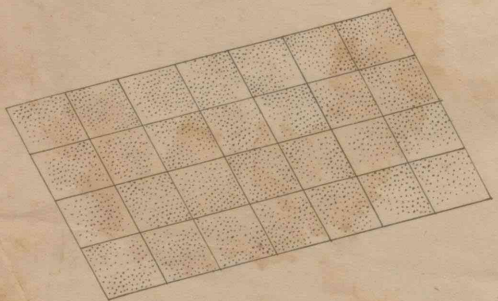
製卵用塗梓ノ圖

梓製蠶卵紙ノ圖



深サ壹寸

乙





小野寺文庫

群馬県立図書館



0498069-4